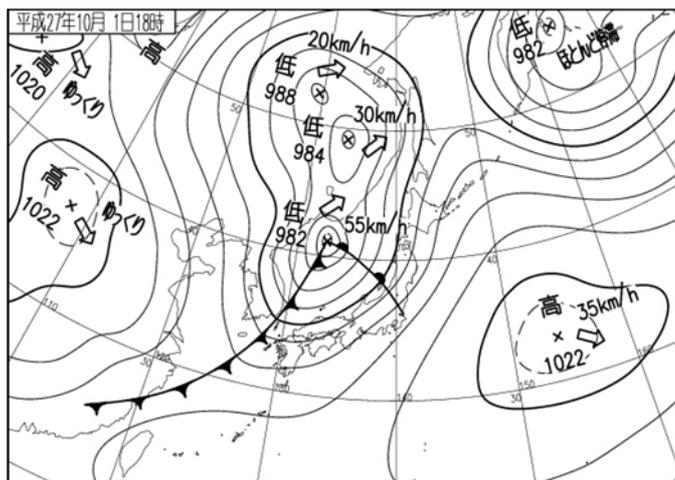


「超爆弾低気圧」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

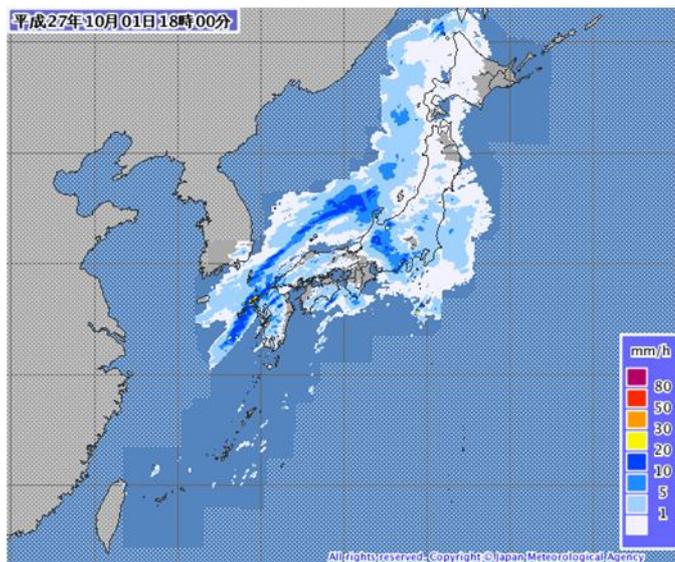
台風 21 号は、台湾海峡から中国大陸に上陸した。一旦は勢力を弱めて、熱帯性低気圧になった。この時点では中心気圧は 1000hPa 以上あり、終息したかに見えた。しかし、再び周囲の雲を寄せ集め、前線を伴った温帯低気圧として、劇的な復活を遂げた。



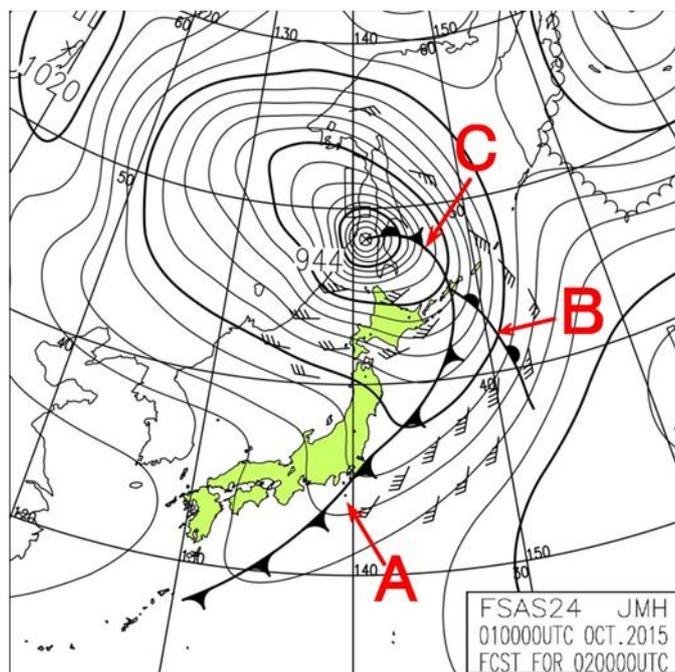
「2015 年 10 月 1 日 18 時の天気図」

低気圧は朝鮮半島を横切って、日本海に入った。

熱帯低気圧から発達した温帯低気圧は、日本海に入ると急速に発達した。中心気圧も急激に下がり、982hPa を示している。南西側に長大な寒冷前線、南東側に温暖前線を伴う。13~15 時頃に東京降った雨は、この温暖前線の通過が原因である。



「天気図と同時刻の雨量解析」 温暖前線・寒冷前線と、降雨帯の位置が、ほぼ一致している。



「2015 年 10 月 2 日 午前 8 時の予想天気図」

上が明日 (10 月 2 日) 朝の予想天気図である。山歩きをする者は、特に冬期の日本海に現れる低気圧を、「爆弾」と呼ぶ。低気圧が去ったあとも、猛烈な吹き返りで、山は暴風雪になるからだ。この低気圧は、「超爆弾低気圧」である。予想天気図を見ると、その爆弾ぶりがよく理解できる。

中心は間宮海峡付近で、気圧は 944hPa。この中心気圧は大型の台風でも、なかなか記録しない値だ。前線を伴っているので「温帯低気圧」であるが、なければ、完全に台風である。中心付近の等圧線の密集度も、台風なみである。風速は 40m/s を軽く超えるだろう。

もう一つ、特筆すべきは、長大な前線を伴うことだ。A は寒冷前線だが、オホーツク海から奄美大島付近まで 2000km 以上の延長である。C は温暖前線に寒冷前線が追い付いた「閉塞前線」だが、これだけでも、長さが 500km 近くある。全国的に大荒れの天気になる原因の一つが、この長大な寒冷前線だ。寒冷前線の正体は、列状の積乱雲や乱層雲である。通過時は、雨はもちろん、突風も発生し、風向も急に変わる。

寒冷前線は、2 日の午前 6 時前後に、東京を通過しそうだ。雨や風に十分に警戒したい。